

平成28年度病虫害発生予察予報第7号（10月）

平成28年10月5日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
かんきつ類 (温州みかん)	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ カメムシ類	平年並(中央) <u>多(中央)</u> 少(中央) 少(中央) 少(中央)
かんきつ類 (中晩柑類)	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ カメムシ類	<u>多(中西、西)</u> 、 <u>やや多(東)</u> 、やや少(中央) <u>多(中央、中西)</u> 、平年並(東)、やや少(西) <u>多(中央、中西)</u> 、 <u>やや多(東、西)</u> <u>多(中西)</u> 、平年並(中央)、少(東、西) 少(県下全域)
促成ナス	ハスモンヨトウ ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>やや多(東)</u> 、やや少(中央) <u>やや多(中央)</u> 、平年並(東) <u>多(中央)</u> 、 <u>やや多(東)</u>

※ () 内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部

I 気象予報（高松地方気象台 9 月 29 日発表）

＜予想される向こう 1 か月の天候＞10 月 1 日から 10 月 30 日

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう 1 ヶ月の平均気温は高い確率 50% です。降水量は多い確率 50% です。日照時間は平年並または少ない確率ともに 40% です。

週別の気温は 1 週目は高い確率 80% です。2 週目は平年並の確率 50% です。3 ～ 4 週目は平年並または高い確率ともに 40% です。

＜向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)
1 ヶ月	四国地方	気温	20	30	50	
		降水量	20	30	50	
		日照時間	40		40	20

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	低い		平年並	高い
1 週目	四国地方	10	10	80	
2 週目		30		50	20
3 ～ 4 週目		20	40	40	

＜予報の対象期間＞

1 ヶ月：10 月 1 日（土）～10 月 30 日（日）

1 週目：10 月 1 日（土）～10 月 7 日（金）

2 週目：10 月 8 日（土）～10 月 14 日（金）

3 ～ 4 週目：10 月 15 日（土）～10 月 28 日（金）

II 病虫害発生予想

1 カンキツ（温州みかん）の病虫害

1) そうか病

予 想 発生量：平年並（中央部）

根 拠

(1) 9 月の調査では発生面積は少なめ、発病程度は平年並であった。

(2) 10 月の降水量は多めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 幼木や発生の多い園地では黒点病との防除を兼ねて、予防的な薬剤散布により、春葉への感染を防ぐ。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量：多（中央部）

根 拠

(1) 9 月の調査では全てのほ場で発生が見られた。先月に比べ病勢の進展が見られた。

(2)10月の降水量は多めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1)密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。

(2)前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3) かいよう病

予 想 発生量：少（中央部）

根 拠

(1)9月の調査では発病が見られなかったが、10月の降水量は多めと予想されているため発生が増加すると考えられる。

対 策

(1)銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢を剪定、除去する。

4) ミカンハダニ

予 想 発生量：少（中央部）

根 拠

(1)9月の調査では発生面積は平年の1/3程度であり、密度も低かった。

(2)10月の降水量は多めと予想されているため少発生が続くと考えられる。

対 策

(1)薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

5) カメムシ類

予 想 発生量：少（中央部）

根 拠

(1)9月の調査ではほ場での発生は見られておらず、フェロモントラップへの誘殺もほとんど見られていない。

対 策

(1)果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、園内をよく観察して、飛来を確認したら周辺作物への飛散防止に努めながら早めに防除する。

2 カンキツ（中晩柑類）の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量：多（中西部、西部）、やや多（東部）、やや少（中央部）

根 拠

(1)9月の調査では県中西部、西部で発生面積が多く、発病程度も高かった。東部では発生面積、発病程度とも平年並、中央部での発生は見られなかった。

(2)10月の降水量は多めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1)幼木や発生の多い園地では黒点病との防除を兼ねて、予防的な薬剤散布により、春葉への感染を防ぐ。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよく

する。

2) 黒点病

予 想 発生量：多（中央部、中西部）、平年並（東部）、やや少（西部）

根 拠

(1) 9月の調査では県下全域で発生が見られた。県中央部、中西部では発生面積が多く、発病程度も先月に比べ高かったが、東部、西部の発生面積はやや少～少発生であり、発病程度も平年並であった。

(2) 10月の降水量は多めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。

(2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3) かいよう病

予 想 発生量：多（中央部、中西部）、やや多（東部、西部）

根 拠

(1) 9月の調査では県下全域で発生が見られた。県西部以外で発生面積の増加が見られたが、いずれの地域も発病程度は平年並であった。

(2) 10月の降水量は多めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢を剪定、除去する。

4) ミカンハダニ

予 想 発生量：多（中西部）、平年並（中央部）、少（東部、西部）

根 拠

(1) 9月の調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県中西部で多かったが、中央部は平年並、東部、西部は少なかった。寄生密度は全般的に低めであった。

(2) 10月の降水量は多めと予想されているため、9月と同様の傾向が続くと考えられる。

対 策

(1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

5) カメムシ類

予 想 発生量：少（県下全域）

根 拠

(1) 9月の調査ではほ場での発生は見られておらず、フェロモントラップへの誘殺もほとんど見られていない。

対 策

(1) 果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、園内をよく観察して、飛来を確認したら周辺作物への飛散防止に努めながら早めに防除する。

3 促成ナス

1) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：やや多（東部）、やや少（中央部）

根 拠

- (1) 9月の巡回調査では、県東部、中央部とも目立った発生は見られなかった。
- (2) 10月の気温は高めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 開口部にネット被覆を行い、成虫の侵入を防止する。
- (2) 薬剤防除を行う場合、発生初期の防除を心がける。

2) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや多（中央部）、平年並（東部）

根 拠

- (1) 9月の巡回調査では県東部で40%、中央部で70%程度のほ場で発生が見られた。また、中央部の一部では寄生密度の高いほ場も見られた。
- (2) 10月の気温は高めと予想されているため、密度が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 防除効果が高い薬剤が少ないので、施設栽培では開口部のネット被覆（1mm目以下）を行うとともに、天敵昆虫の利用など、他の防除方法も組み入れる。
- (2) 薬剤防除を行う場合、発生初期の防除を心がける。

3) タバココナジラミ

予 想 発生量：多（中央部）、やや多（東部）

根 拠

- (1) 9月の巡回調査では県東部、中央部とも多くのほ場で発生が見られたが、寄生密度の高いほ場は見られず、すす病も見られていない。
- (2) 10月の気温は高めと予想されているため、密度が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 防除効果が高い薬剤が少ないので、施設栽培では開口部にネット被覆（0.4mm目以下が望ましい）を行うとともに、天敵昆虫の利用など、他の防除方法も組み入れる。
- (2) 薬剤防除を行う場合、発生初期に生長点付近を中心に防除を行う（成虫は新葉の葉裏に産卵する）。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ（こうち農業ネット）

- ①病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ②病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③病害虫発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病害虫 etc.